

抄録

慢性腎臓炎ニ於ケル臨牀的及ビ解剖的關係

(Arch. Int. Med. Vol. XXVI, No. 3, P. 259)

モシユコウイツ氏ハ次ノ如ク述ベタリ慢性腎臓炎ハ實ニ血管ノ疾病ニシテ初メ其變化ハ毛細管(絲絨體)ヨリ起リ漸次大血管ニ波及スルモノナリ此輕度ノ慢性腎臓炎及ビ動脈硬變ハ同一ノ疾病ナリ蛋白尿性網膜炎ニ於ケル變化ハ形態學的ニハ慢性腎臓炎ノモノト同一ナリ蛋白尿ノ存在或ハ程度高張症ノ存在或ハ程度ハ腎臓ノ解剖的變化ノ程度或ハ種類ニ常ニ關係スルモノニアラズ恐ラク慢性腎臓炎ハ真正ノ高張症ヨリ初マルモノナリ所謂萎縮腎トハ其結果ナリ毛細管硬變ニテ腎臓機能不全ヲ變セシムル最モ必要ナル腎臓以外ノ原因ハ循環不全ナリ若シ他ノ狀態同一ナル時ハ循環不全ガ回復スレバ腎臓機能不全モ輕快ス高張症ヲ伴フ毛細管硬變ニテ起ル腎臓機能不全ノ症

狀ト心臟瓣膜病ノ症狀トノ間ニハ著シキ平行アリ心臟瓣膜病ニテ代償機ヲ失フ時ハ慢性腎臓炎ノ時ト區別シ難キ腎臓機能不全ノ症狀ヲ現ハス其結果慢性腎臓炎ノ臨牀的病理的分類ヲ次ノ如クナセリ(一)毛細動脈管硬變(二)急性細菌性心臟内膜炎ニヨル慢性絲絨體腎臓炎(三)澱粉樣腎(四)慢性實質性腎臓炎或ハ「ネフロシス」(エプスタイン氏)

(KH抄)

膽囊及ビ膽道ノ疾病ノ診斷上ニ

於ケル暗示

(Jour. Am. Med. Assn. Vol. 75, No. 17, P. 1105)

パーカー氏ハ此診斷ニ於テ既往症其他種々ノ検査法ノ必要ナルコトヲ詳論シ尙ホ鑑別診斷ヲ説キテ次ノ如ク述ベタリ急性膽囊炎(輕度)ニテハ輕度ノ消化不良及ビ右季肋部ノ輕度ノ疼痛アリテ時トシテハ膽囊ヲ觸レ輕度ノ熱及ビ多核白血球增多症アリ此症狀ハ安靜食餌療法局所^{ニテ}温卷法等ニテ屢々數日間ニ消失ス急性膽囊炎(高度)ニテハ通常惡心嘔吐アリテ膽囊增大シ通常觸診ニテ甚ダ疼痛アリ右側直腹筋ノ上部強硬ス白血球增多症(一一〇〇〇)

二〇・〇〇〇)熱發時トシテ惡寒アリ重症トナラバ急性蟲
 樣突起炎或ハ胃潰瘍十二指腸潰瘍等ノ破壞ト誤ルコトア
 リ慢性膽囊炎(膽石ノ存在セルコトアリ又セザルコトア
 リ)ニテハ時々消化不良アリテ食後ノ膨滿壓重ノ感右季
 肋部ノ疼痛等アリ時トシテハ上腹部右季肋部ニ起リ背部
 右肩胛部ニ放散シテ嘔吐ヲ伴フ疝痛ヲ起スコトアリ膽囊
 ハ觸ル、コトアリ又觸レザルコトアリ通常膽囊部ハ壓ニ
 ヲリテ過敏ナリX放線検査上膽石ノ存在ヲ示スコトアリ
 又示サバルコトアリ又幽門部ガ右上方ヘ移動セルコトヲ
 示スコトアリ殊ニ癒着性膽囊周圍炎ヲ合併セル時ニハ胃
 十二指腸ノ初部ノ屈曲セルコトヲ示スコトアリ一般狀態
 障害セラル急性傳染性膽囊炎ニテハ疝痛發作ノ後黃疸起
 リ肝臟増大シ上腹部中央ヨリ右方ニカケテ過敏トナリ熱
 ト白血球増多症アリ結石去ラバ傳染ハ速ニ去ルコトアリ
 疝痛ハ起ルコトアリ又起ラザルコトアリ惡寒ト發汗ヲ伴
 フテ熱ヲ反覆スルハ化膿性膽道炎ヲ示ス持續性ニ黃疸ア
 リ膽囊ハ多ク同時ニ慢性膽囊炎アル爲メニ小サク萎縮シ
 觸ル、コトマレナリ此場合ハ手術ニ適應ス慢性加答兒性
 膽道炎(結石性或ハ非結石性)ニテハ慢性間歇性黃疸アリ

時トシテハ疝痛發作アリ熱ハナキコトアリ又一時性ニ起
 ルコトアリ増惡ノ時ニ輕度ノ白血球増多症アリ此場合ニ
 輸尿管ヲ壓迫セル癌腫或ハ肥大性肝臟硬變ト誤ルコトア
 リ慢性脾臟炎或ハ脾頭癌ニヨリテ膽道ガ閉塞セラレ膽囊
 ノ擴張セル場合ニハ高度ノ黃疸(徐々ニ起リテ進行ス)皮
 膚搔痒アリ通常疼痛ト熱ヲ全ク缺グ膽囊ハ觸レ易シ勿論
 癌ノ方ハ脾臟炎ノ時ヨリモ衰弱ヲ起シ易シ糖尿ガ二五%
 ニアリ手術ニ適應ス單ニ加答兒性黃疸ノ存スルモノトシ
 テ時期ノ遅ル、コト多シ膽囊水腫或ハ慢性間歇性膽囊水
 腫(膽囊ニ結石ノ存在セルコトアリ又存セザルコトアリ)
 ニテハ數月數年反復シテ無熱ニテ疼痛ヲ右季肋部ニ發作
 ス此時反復膽囊ノ擴張アリ併シ限局性及ビ全身性傳染ノ
 症狀ナシリーデル氏葉ヲ觸ル、時ニハ遊走腎臟水腫或
 ハ新生物ト誤ルコトアリ膽囊ノ癌腫ニテハ膽囊部ニ結節
 狀塊ヲ觸レ以前ニ膽囊炎或ハ膽石ノ症狀アリシモノニ見
 ル七五%ニ黃疸アリ二五%ニ腹水アリ肝臟ニ轉位ガ早ク
 起ルコトアリ通常惡液質アリ手術ハ非常ニ早期ニ行ハザ
 レバ患者ヲ救フコトマレナリ死ハ通常數月間内ニ起ル。

(KH抄)

肺結核ノ診断及ビ治療ニ關スル

一一ノ點

(Am. Jour. Med. Sc., Vol. CLX, No. 3, P. 324)

ブラウン氏ハ其内ノ治療ノ部ニテ殊ニ食物ニ關シ次ノ如ク述ベタリ患者ガ適當量ノ蛋白質ヲ有スル迄餘分ノ肉類ヲ與フルコトハ必要ナルガ如シ若シ「カルシウム」鹽類ノ過剰ヲ要ストセバ之ヲ供給スルニハ恐ラク身體ニ直ニ利用セラル、形ニテハ牛乳ノ如キモノハ他ニナシ肺結核ニ於テ血清中ノ「カルシウム」含有量ノ變化セザル事實アレドモ之ヲ以テ其使用ヲ廢スルニハ論據トナス能ハズ食物ニ「カルシウム」量増加スレバ血液ハ其増加セル「カルシウム」量ヲ組織ニ或ハ癥痕形成ノ爲メニ送り去ルコトアルモノニアラズヤ牛乳ヲ注意シテ用フレバ食物中ニ脂肪溶解物ノ缺乏ヲ起ス心配ナシ肝油牛酪等ハ之ヲ多量ニ含メドモ植物性ノ油及ビ脂肪ニハ甚ダ少ナク或ハ全ク之ヲ缺グ水溶解物ハ常ニ充分供給セラル、モノナリ。

(KH抄)

隨意ニ起ル脉搏増加ノ一例

(Bull. Johns Hopkins Hosp., Vol. XXXI, No. 355, P. 303)

キング氏ハ次ノ如ク述ベタリ或ル患者ハ脉搏増加ヲ考フル丈ニテ脉數ヲ増加シタリ増加セシムル様ニ命ズレバ殆ド直ニ非常ニ速ニ脉數ハ上レリ其時瞳孔ハ少シク散大シ呼吸ハ少シク不正トナリ又少シク淺クナレリ然レドモ此増加ハ患者ガ通常ノ状態ニテ呼吸ヲ持續セシ時ニテモ等シク著明ナリキ。(KH抄)

實驗的肺炎ノ研究

(Jour. Exper. Med., Vol. XXXII, No. 4, P. 401)

ブレーク及ビセシル氏ハ多數ノ實驗ノ部分的報告トシテ次ノ如ク述ベタリ猿ニテ溶血性連鎖狀球菌ノ大量ヲ氣管内ニ注入スレバ原發性肺炎ヲ起スコトヲ得其少量ヲ同様ニ入ルレバ著シキ續發性肺炎ヲ起ス連鎖狀球菌肺炎ニテ本菌ガ猿ノ肺ヲ胃スハ原發的ニ肺ノ間質淋巴管ヲ通ジテ起リ本病ハ原發性ニ毛細氣管支ノ方面ヨリ傳染スルモノニアラズ人類ニテモ同様ナラント思ハルレドモ直ニカ

ヲ結論スルハ尙ホ不安ナリ何トナレバ人類ニテハ前ニ氣管支加答兒アリテ連鎖狀球菌肺炎ハ通常只續發傳染トシテ來ルヲ以テナリ。(KH抄)

戰時ニ於ケル破傷風豫防法

(The Journal of the American Medical Association

Vol. 75, No. 11, 1920)

(登坂清喜抄)

「コミッチー」社長ノダビド、ブリュース氏ガ、曩ニ本社ニ寄セシ破傷風ノ統計表ヲ見ルニ、戰時ニ於ケル創傷傳染ノ豫防法ノ甚ダ必要ナル事ヲ教ユルモノナリ。

即チ、英國ニ於テ送還サレシ負傷兵約一二四二〇〇〇人ノ内、一四五八人ノ破傷風患者ヲ出ダセリ。然シテソノ罹患率ハ、一九一四年九月(即チ開戰第二箇月日)ニハ九%、同年十月ニハ七%、越エテ一九一八年ノ十一月ニハ〇・七%迄ニ減少セリ。

罹患率ノ斯ク著シク減少セルハ、負傷後直チニ、破傷風治療血清ノ注射ヲ受ケタルニ依ルモノナリ。

尙ホ該血清注射ニヨリテ、假令、發病ストモ、ソノ潜

伏期ヲ長カラシメ、且症狀モ輕微ニ止リテ、全身症狀ヲ發スルモノ著シク減少セリ。

而シテ同氏ハ、少クトモ負傷後直チニ、精良ナル血清ノ適當量ノ注射ヲ受ケタルモノハ、ソノ死亡率ハ、舊時ノ八五%ヨリ二三%ニ下レリト云ヘリ。